

園芸農家の持続的営農に向けた 高付加価値果菜類の施設園芸ノウハウ普及・実証事業 株式会社和郷(千葉県)

ケニア国の開発ニーズ

1. 消費者ニーズの高度化・多様化に対応する商品開発がなされていない
(研究所等の園芸セクター関係機関に、高付加価値果菜類などの商品開発を実施する経験およびノウハウが無い)
2. 現地園芸農家による施設栽培の技術・ノウハウが不足している
(現地園芸農家にもハウスが普及し始めているが、適切な栽培技術やノウハウを有していない。普及の仕組みも機能していない)

普及・実証事業の内容

- 高付加価値果菜類(イチゴ・トマト)の商品開発プロセスの検証
- 現地園芸農家向け施設栽培ノウハウの検証
- 現地市場関係者や現地農家グループに対する普及方法と課題の整理検討

提案企業の技術・製品



製品・技術名

1. 高付加価値果菜類の商品開発ノウハウ
2. 適応範囲の広い施設栽培ノウハウ

事業概要

相手国実施機関・事業サイト:
ジョモ・ケニヤッタ農工大学

事業期間: 2017年2月~2018年9月

ケニア国側に見込まれる成果

- 現地園芸セクターに適用可能な高付加価値果菜類の商品開発プロセスと果菜類の施設栽培管理ノウハウが、市場関係者や現地農家グループに対し展示・普及できる状態になる
- ケニアの園芸セクター関係機関が、高付加価値果菜類の商品開発プロセスおよび果菜類の施設栽培における栽培管理ノウハウを、ケニアの環境変化に即して持続的に改良し普及できるようになる

日本企業側の成果

- 地元篤農家・農家グループとの連携による、高付加価値果菜類の生産・販売事業**
- ODA事業を通じて商品開発された高付加価値果菜類(高糖度フルーツトマト、イチゴ等)の生産と販売(篤農家や農家グループとの提携による生産体制の確立)
 - 収穫物の販売先となる大口顧客(スーパーマーケットや高級青果物販売店、カフェ・レストランチェーン、高級ホテル等)との直販ルート開拓
 - 将来展開案:ケニア周辺国、EUおよび中東に対する輸出